

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	八王子子ども食堂・ステージ2へ
資金分配団体名:	一般社団法人フードバンク八王子
実行団体名:	一般社団法人フードバンク八王子
実施時期:	2020年12月～2021年11月
事業対象地域:	東京都八王子市
事業対象者:	貧困家庭と大学生

Version 3.2

日付: 2021年12月10日

I. 事業概要

事業実施概要	コロナ禍で深刻化した経済的苦境と社会的孤立に対して、子ども食堂を中軸として、次の五つのアクションを実行する。(1) 子ども食堂に向けた食糧支援ネットワークの拡大と強化、(2) 子ども食堂へ結びつけるために(まだ子ども食堂を知らない)母子家庭を中心とした困窮家庭への食料配送、(3) 子ども食堂へ結びつけるために(まだ子ども食堂を知らない)大学生への食糧支援、(4) 子ども食堂の活動のレベルアップを図るために「事例(つまり食堂運営上のトラブル)研究会」の準備と開催。更に、今年度の異常さを記録に残すためにも、(5) コロナ禍の2020年度の八王子子ども食堂の現実をテーマとした報告書の作成。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	事業設計の点で大きな誤算があったということ、まずは認めたい。本プロジェクトでの事業設計は、コロナ禍で苦境に陥った貧困家庭と大学生を子ども食堂と結びつけることを通じて八王子の子ども食堂全体の活動を支援するという基本的な構造を中核にしていたが、子ども食堂が驚くほど長期にわたって開催できなくなったこと、更に、重要なターゲットであった学生が大学に行けなくなった(つまり彼らにリーチするのが極めて困難になった)ことで当初の企図通りの効果が望めなくなった。ところが、子ども食堂はパントリーに活動を切り替えたため、私たちがそれを支援することが可能になり、大学生については東京都立大学などとの密接な連携で、結果として、一定の成果を挙げることができたのは幸運であった。だが、そこから、新たな課題も浮上してきた。子ども食堂については、いつまでパントリー活動を続けるのか、そもそも食堂活動とパントリー活動は何が違うのか、などの困難な問題に直面し、大学生については、大学側(ある意味では当然なのだが)学生の生活状況を具体的に把握する仕組みが存在せず、従って食料支援を行うための回路構築が困難であり、より一般的に言えば、学生を地域の多様な社会資源と接続するための正規な(?)回路が存在しないことが浮かび上がった。貴重な例外とも言うべき都立大学でさえ、基本的な状況は同様であり、この回路の開発可能性は、これからの大学組織のあり方について一石を投じることを願っているが、残念ながら、その解決は困難であろう。せいぜい、ある種のゲリラ戦のみが現実的である状況は、これからも続くに違いない。だが具体的に、どのようにしてゲリラ戦を展開すべきなのか、この問題は簡単ではない。今回のプロジェクトを通じて、私たちは、以上のような新たな、しかも困難な課題へと認識を深化させることができた。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態(アウトプット) ※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態(アウトプット)	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	食料関連の不足	困窮学生への食糧支援と子ども食堂への接続	食糧支援の学生数と子ども食堂への接触回数	支援学生数をのべで50とする	のべで470人の学生に食糧支援	「子ども食堂への接続」という点では十分な成果を挙げることはできなかったが、食糧支援という点では一定の成果を挙げることはできた。
生活困窮者	食料関連の不足	困窮家庭への食料配送と子ども食堂への接続	食料配送の困窮家庭数と子ども食堂への接触回数	食料配送数をのべで300とする	のべで462世帯に食糧支援	上記と同様に、「子ども食堂への接続」という点では十分な成果を挙げることはできなかったが、食糧支援という点では一定の成果を挙げることはできた。
中間支援者	事業実施上の困難	子ども食堂への食糧支援ネットワークの拡大と寄付機能を備えたHPへ更新	食糧支援企業の数	食糧支援企業を5つ増加させる	2020年から99の企業・団体が増加した	私たちの努力の成果というよりも、時代の状況が私たちの活動を後押ししてくれた、ということだと判断している。
中間支援者	連携の不足	「事例研究会」の活動記録。その実像は「食堂運営上のトラブル対応」なので、共にディスカッションすること自体に意味があり、そのプロセスの記録となる。	「事例」の内容の質と量	質の高い「事例」として練り上げる	全6回の研究会を開催	当初の目論見としていた「子ども食堂の運営上のノウハウ」とは少しズレたが、様々なディスカッションを通じて一定の成果を挙げることはできた。
中間支援者	連携の不足	2020年度・八王子子ども食堂の活動報告書	報告書については、その内容	公表できる活動報告書	活動報告書を公開	今回のプロジェクトでは、唯一、胸を張って威張れる成果を挙げることはできた(と思う)。

IV. アウトカム(事業実施以降に目標とする状況)*

事業実施以降に目標とする状況	東京都八王子市での子ども食堂では、(1) 食堂活動とパントリー活動への両立支援が強化され、(2) 困窮家庭や大学生の居場所や食糧支援が拡大され、更に(3) 子ども食堂の運営者を孤立させないためのノウハウが蓄積・共有される。また、本事業では「マネタイズ・エンジン」を構築するわけではないが、寄付機能を備えたHPへ作り替えることで事業経費の安定的な確保に努める。地域企業との連携強化で好循環を生み出せるように。
考察等	(1) と (2) に関して、食糧支援に限れば確かに「強化された」と判断できるが、子ども食堂にとって食堂とパントリーの関係如何など困難な課題は残り続け、居場所機能についてはコロナ禍の下で確実に弱体化していると言わざるを得ない。(3) については一定の成果を挙げることはできたものの、中間支援組織として継続的に関わり続ける必要がある。また、事業経費の安定的な確保についても継続的な課題となり続けるのは現実だが、HPの更改などを通じて、今後の企業連携の第一歩を踏み出すことができたのは(大きくはないが)一定の成果にはなったと判断している。

V. 活動

活動	進捗	概要
(1) 子ども食堂に向けた食糧支援ネットワークの拡大と強化	計画通り	取引企業数は倍増、毎月の寄付件数も約2割増となり、目標を大きく上回った。市内の企業を中心に積極的にアプローチをかけることがコロナ禍の影響でできなかったが、多くの企業側からの問合せ、他団体からの紹介などがこの実績に繋がっているのは、ラッキーだったとしか言いようがなく、自助努力が今後の課題。 単に食品・資金の寄付だけでなく、場の提供、フードドライブの協力など、取組みでの協力体制ができたことも大きな成果であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。
(2) 子ども食堂へむすびつけるために母子家庭を中心とした困窮家庭への食料配送	ほぼ計画通り	7月 応募351件 配送160世帯 10月 応募259件 配送152世帯 毎回「皆で応援」を呼びかけ、多くの企業市民の皆さまの協力を得て実施できたことは大きな成果であった。こども食堂に結び付けるという目的はパンフレットを封入したのみで 10月は応募件数が激減したことは、withコロナの生活が安定したことの表れかもしれない。今後の食料支援の在り方を考える必要があるが、アンケートはがきによると厳しい家庭もまだまだ多く、継続した取組みが必要と感じている。
(3) 子ども食堂へむすびつけるために大学生への食糧支援	ほぼ計画通り	都立大学を中心にして一定数の学生支援を実現することができたが、これは大学内部にフードバンク活動を行う有志が「たまたま存在した」からに過ぎない。このような僥倖に依存するのではなく、大学組織の仕組みとしてどうするのか、それとどのように繋がるのか、これが今後の問題になろう。
(4) 子ども食堂の活動のレベルアップを図るために「事例研究会」の準備と開催	ほぼ計画通り	4月 はいっぶ食堂 坂本洋子さん 開催場所 16名参加 5月 こども食堂ふくろうはうす 細田明菜さん 子どもに向き合う 20名参加 6月 さくら子ども食堂 芦田さん 再開に向けた取組み 14名参加 7月 フードバンク八王子 フードバンクの課題 18名参加 9月 子ども食堂カフェ北野 様々なチャレンジ 24名参加 10月 湯浅誠氏 これからのこども食堂のあり方 68名参加 各こども食堂内にある様々な課題にもっと踏み込む必要があったのかもしれない。ネットでの開催に難しさを感じた。今後はもっと気軽な会話の中で、気づきを得るような取組み「井戸端会議」として継続を考えている。
(5) 2020年度・活動報告書作成	計画通り	400部作成。発行時期は大幅に遅れてしまったが、各食堂からの活動報告など内容は充実したものができたと思っている。寄付者（企業、個人の方）を中心に配布、市内の企業には直接持参するなどした結果、寄付の呼び水にもなるという想定外の効果も得た。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	想定外のアウトカムと言えるかどうか微妙であるが、学生支援への試行錯誤の一つとして、2021年2月～4月に地域の飲食店に協力してもらった「学生食堂ネットワーク」を企画し実行した。その結果、地域飲食店へ（多少は）学生支援の問題意識が広がった。（この企画の経費は本プロジェクト外・自費である）
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	浮かび上がってきた課題としては、(1) 子ども食堂でのパントリーをどうするのか、(2) 大学生支援の際にどのような回路をどのようにして構築すべきか、などが挙げられるが、(1)については、食堂自身の考え方が最優先であるのは当然だが、食堂を取り囲む外部条件として、食堂が少しでもパントリー活動を終了しやすくなるような環境条件（フードバンク系のパントリーネットワーク）を整えること、(2)については大学との現状の繋がりを維持して試行錯誤を続けること、こういったことが、今後の活動の重要な要素になってくる。また、以上とは別次元の問題として、支援して下さる企業・団体との継続的・発展的な関係のために「報告会」など双方向を意識した関係構築が重要になってくると考えている。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
八王子食堂ネットワーク	食糧支援や事例研究会などを通じて、より関係を深めていった。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,441,000	5,398,855	99.2%
	管理的経費	720,000	765,340	106.3%
合計		6,161,000	6,164,195	100.1%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	2021年3月22日取材 「コロナ社会を生きるインタビュー」 共同通信 2021年5月7日号 「子ども食堂コロナ禍で増えたもの団体数と支援の輪」 タウンニュース https://www.townnews.co.jp/0305/2021/05/07/573049.html 2021年11月18日号 「困窮家庭に食品配送 フードバンク希望者多数」 タウンニュース https://www.townnews.co.jp/0305/2021/11/18/600346.html
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	2021年11月 ホームページ 新しく寄付のページを設けるリニューアル 2021年11月 パンフレット 現状の活動に合わせてリニューアル
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	2021年3月 こどもたちに「音楽を届けるプロジェクト」春と音楽を楽しもう！In八王子オーバ (2021年4月4日実施) チラシ作成 A4版800枚 A3版100枚 2021年7月 はちおうじっ子のコロナに負けるな！応援プロジェクト チラシ作成 2021年5月作成 A4版7000枚 2021年10月 はちおうじっ子のコロナに負けるな！応援プロジェクト チラシ作成 2021年9月作成 A4版7000枚
4.報告書等	報告書 八王子食堂ネットワーク 「コロナ禍」の1年の記録 https://www.foodbank8.tokyo/post/%E3%80%8C%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E7%A6%8D%E3%80%8D%E3%81%AE%E4%B8%80%E5%B9%B4%E3%81%AE%E8%A8%98%E9%8C%B2

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	文書管理規程、コンプライアンス規程に関しては、今期から実施すべく準備中。他の規定類は運用を開始。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		倫理規程、リスク管理規程、環境配慮方針、情報公開規程、公益通報者保護に関する規程、役員の利益相反防止のための自己申告等に関する規程、文書管理規程、コンプライアンス規程など、今回、ようやく整備することができた。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	その報告の書式や時期などを準備中。
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	今期から、内部監査を行う予定。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	